

【平成30年度】  
地域再生大作戦取組状況等  
—実施団体取組概要・成果・評価等—

## 平成31年度「地域再生大作戦」取組とりまとめ表(予定)

31.2.14現在  
北播磨県民局

### 《 新規地区 》

NO	地区名	団体名	地域再生大作戦事業に取り組む事業	備考
<b>【集落再生支援事業】(地域再生の立ち上げを支援)</b>				
	三木市 吉川地区		集落再生アドバイザー派遣事業	
	加西市 (実施予定)		集落再生アドバイザー派遣事業	
	加西市 (実施予定)		集落再生アドバイザー派遣事業	
<b>【「がんばる地域」応援事業】(地域の自主的・継続的な取組を支援)</b>				
	西脇市 津万地区		「がんばる地域」交流・自立応援事業(地域の活動拠点等整備支援)&(活動支援)	ハード10,000千円(補助金5,000千円)
	西脇市 黒田庄・比延地区(勤兵衛の郷)		集落連携計画策定事業	
	加西市 日吉地区	日吉ふるさと創造会議	集落連携計画策定事業	
	加西市 西在田地区	西在田ふるさと創造会議	集落連携計画策定事業	
	加東市 上福田地区		集落連携計画策定事業	
	加東市 河富地区		「がんばる地域」交流・自立応援事業(活動支援)	
	多可町 天船地区		「がんばる地域」交流・自立応援事業(地域の活動拠点等整備支援)&(活動支援)	ハード2,500千円(補助金1,250千円)
	多可町 清水地区		「がんばる地域」交流・自立応援事業(地域の活動支援)	
<b>【地域再生促進事業】(地域の取組を支える基盤づくり)</b>				
	大学連携	関西国際大学	他大学等の活動支援	
	大学連携	八千代活性化センター	他大学等の活動支援	

※ 2/14現在の状況です。

## 平成30年度「地域再生大作戦」実施とりまとめ表

### 《 継続地区 》

<b>【集落再生支援事業】(地域再生の立ち上げを支援)</b>				
	加東市 上福田地区		集落再生アドバイザー派遣事業	
	加西市 日吉地区	日吉ふるさと創造会議	集落再生アドバイザー派遣事業	
	加西市 西在田地区	西在田ふるさと創造会議	集落再生アドバイザー派遣事業	
	多可町 門前地区	門友会	集落再生アドバイザー派遣事業	
	多可町 中野間地区	中野間地域づくり協議会	集落再生アドバイザー派遣事業	
	加西市 日吉地区	日吉ふるさと創造会議	トライやる事業	
	加西市 西在田地区	西在田ふるさと創造会議	トライやる事業	
<b>【「がんばる地域」応援事業】(地域の自主的・継続的な取組を支援)</b>				
	西脇市 黒田庄地区	黒田庄まちづくり協議会	「がんばる地域」交流・自立応援事業(活動支援)	
	西脇市 津万井地区	津万井地域活性化委員会	「がんばる地域」交流・自立応援事業(活動支援)	
	小野市 来住地区	鯉溪温泉きすみのの郷	「がんばる地域」交流・自立応援事業(活動支援)	
	加西市 九会地区	九会地区ふるさと創造会議	「がんばる地域」交流・自立応援事業(活動支援)	
	加西市 富田地区	富田まちづくり協議会	「がんばる地域」交流・自立応援事業(活動支援)	
	加西市 宇仁地区	宇仁郷まちづくり協議会	「がんばる地域」交流・自立応援事業(地域の活動拠点等整備支援)	ハード
	多可町 観音寺地区	観音寺むらづくり委員会	地域おこし協力隊等起業化モデル事業	
	多可町 岩座神地区	岩座神地域協議会	田舎に帰ろうプロジェクト	
	多可町 天船地区	天船地域づくり委員会	「がんばる地域」交流・自立応援事業(活動支援)	
	多可町 門前地区	門友会	「がんばる地域」交流・自立応援事業(活動支援)	
<b>【地域再生促進事業】(地域の取組を支える基盤づくり)</b>				
	大学連携	関西国際大学	大学等との連携による地域創生拠点形成支援事業(地域創生拠点活動支援)	
	大学連携	八千代活性化センター	大学等との連携による地域創生拠点形成支援事業(地域創生拠点活動支援)	

(様式1) H30年度地域再生大作戦取組地域の評価

(市町名: 西脇市)

No	事業名	市町名	地域名	取組概要	取組の成果	取組目標の達成度・評価(地域の自己評価)
						" (市町の評価)
1	「がんばる地域」交流・自立応援事業	西脇市	黒田庄地区 黒田庄まちづくり協議会	<p>黒田庄地区では平成28年度に新たに策定した第2期黒田庄地区まちづくり計画に基づき、地域自治組織である黒田庄まちづくり協議会が中心となってまちづくり活動を進めているが、その重点目標の一つとして『黒田庄の特産品づくり』を掲げている。そのような中、平成29年度まで企業組合の特産品開発グループが約20年にわたり黒田庄地区の伝統食や特産加工品等の製造販売を手掛け広く活躍をしていたが、メンバーの高齢化などにより活動が続けられなくなり解散するに至った。そこで黒田庄まちづくり協議会では特産品づくりをさらに推進するため、新たに特産開発グループを立ち上げ、地域の郷土料理や伝統食の製造販売、特産加工品の研究開発・製造販売などの事業を通して食で地域の輪をつなぐ取組を進めることで、安全・安心の地域づくりにつなげていく。また地域外へも黒田庄地区の魅力を積極的に発信し、活動の幅を広げていく。</p>	<p>黒田庄まちづくり協議会の呼びかけに応じて集まった7名の女性(現在は8名)により特産開発グループ「黒っ娘おぼんざい」を結成。8月の結成後活発な活動を展開し、これまで黒っこマザーズが担っていた黒田庄地区の特産品を活用した、黒田庄地区の魅力発信も兼ねて地域住民への安全・安心な食の提供を通じて地域の和をつなぐ取組を実施。伝統的な巻きずしの製造・販売やお弁当の注文販売などの活動を幅広く行い、認知度も高める中で地域の方に安心して食べていただける食の提供を進めている。現在では北はりま旬菜館や西脇市、兵庫県等と連携し、様々なところで販売やアピールができるよう、黒田庄地区の魅力発信についても活発に活動を進めている。</p>	<p>新たな特産開発グループを立ち上げることができ、黒田庄地区の特産品を利用した加工食品や地域の伝統ある巻きずしなどの郷土料理を製造・販売していくことが可能となったことで、安全・安心な食の提供を通じて地域の輪をつなぐとともに地域コミュニティの活性化につなげることができ、また、地域内はもとより、地域外へも黒田庄地区の魅力を広く発信する礎をつくることができた。</p> <p>また、様々なところでアピールを重ね、販路の開拓・拡大を進めることによって需要を伸ばし、持続可能な事業展開につなげることができた。</p>
						<p>地区のまちづくり計画に目標として掲げる「黒田庄の特産品づくり」を実践する組織の立ち上げから事業実施までを、地域住民が主体となって進めていることにより、行政主導では生まれにくい、大きな推進力を持って事業を進めることができています。食を扱う事業のためその安全性を十分考慮しながらも、田舎の手づくりならではの希少性や原材料の安全性などの付加価値を最大限に活用しながら、人材も含めて地域資源の有効活用の道筋を創りだし、地域コミュニティの活性化や地域課題の解決につなげる取組として大きな成果をあげている。</p>
2	「がんばる地域」交流・自立応援事業	西脇市	黒田庄地区 津万井集落 津万井地域活性化委員会	<p>黒田庄町津万井集落の概要や歴史などをまとめた「津万井概史」を編み出すことで、世代間交流や地域の歴史、伝統の継承などに活用し、地域住民の故郷を思う郷土愛の醸成を図る。また地域の持つ魅力を「津万井概史」を通じて広く発信することで、津万井集落ひいては黒田庄地区、西脇市の魅力の強化となり、関係人口の増加につなげることで、地域住民がいきいきと活躍できる場の創造や、住民同士が支え合う、顔の見える安全・安心の地域づくりを進める。</p>	<p>黒田庄町津万井集落の歴史・伝統行事など、集落全体の姿を網羅した「津万井概史」を作成した。「津万井の日」に合わせて実施した全住民への発表会、津万井カフェでの話題づくりなど、この冊子を地域の教科書として活用することにより、地域コミュニティの活性化に大きく寄与することができた。また、「津万井概史ハイキング」の実施を通じて世代間交流にも大いに役立てることができた。今後も「津万井概史」を活用した企画を継続して行い、地域コミュニティの活性化につなげていく。</p>	<p>津万井概史の配布は、計画では150冊を予定していたが、内容が盛り沢山で出来が良く、親戚などにも渡したいと希望があるなど思った以上の反響があり200冊を配布した。例年行っている「津万井の日」で津万井概史を活用したイベントを実施したところ150名以上の参加があり、また津万井概史掲載の史跡を巡るハイキングにも多くの方が参加されるなど、大いに盛り上げることができた。</p>
						<p>津万井集落ではこれまでから地縁のつながりを大切にし、文化や伝統を守り継承していく事業を活発に行っていたが、今後は地域住民自らが地域の活性化を図るために組織した「津万井地域活性化委員会」を中心に地域づくり事業を進め、「津万井概史」という地域の教科書ができたことにより、その有効活用も様々な面で考えていくことができ、後年も含めその効果は大きい。</p>

No	事業名	市町名	地域名	取組概要	取組の成果	取組目標の達成度・評価(地域の自己評価)
						" (市町の評価)
	「がんばる地域」交流・自立応援事業	小野市	来住地区 鍛溪温泉きすみの郷	400年以上の歴史を持つ鍛溪温泉を核として、来住地区の住民参画により、地域資源を活用した地域の活性化と観光交流の推進を目指している。5月にオープンした「鍛溪温泉きすみの郷」では、温浴施設やそば処の運営を行いながら、祭りなどの地域イベントへの出展やホームページの掲載などの情報発信を行い、地域のコミュニティづくりや雇用の創出、都市交流を進めている。	温浴施設では、雇用や接客、施設管理などすべてが初めての経験であったが、月日を重ねるにつれて運営は安定してきた。地域イベントの秋の例大祭やきすみの祭りでは、物販や足湯体験などにより、地域を盛り上げると共に地域内外にPRを行った。また、施設内にパンフレットやポスターを掲示、ホームページを新設することで、利用者の増加につながっている。来館者数にあっては、初年度でありながら目標達成(1万人)に近い数字となるなど、施設を拠点に地域の賑わいが増えつつある。	<p>温浴施設の地元運営ということで、未経験者が試行錯誤を繰り返しながら、日々運営に携わってきた。スタッフも積極的に運営に関わり、連携も図られている。</p> <p>オープン初年度であり、お客様の動向がつかめないうち、タイムリーにイベントを実施することができなかったが、データも蓄積されてきており、今後の活動に生かしていきたいと考えている。初年度、「ゼロ」から出発した活動としては、運営の円滑化、利用者の増加傾向、認知度アップなどを考えると、初期の目的はほぼ達成されたと思われ、評価できるものと考えている。</p>
	「がんばる地域」交流・自立応援事業	加西市	宇仁地区 宇仁郷まちづくり協議会	<p>H27年10月にオープンした「宇仁郷歴史資料館」は、宇仁地区の歴史資料を中心に貸し出しやパネル展示を行っているが、この度、郷土歴史研究家である吉田省三氏(故人)の著書や古文書等約6000点を遺族より寄贈いただいたことから、同資料館を更に拡充整備し、郷土資料の更なる充実を図るため内装を改修しました。</p> <p>【取組改修内容】 ○木造平屋(77.76㎡)の一部(24㎡)を改修。 ○寄贈いただいた約6000冊の書物とこれまでの書物を分類し、全てバーコードを貼り、データ化し、図書目録として登録。</p>	<p>■ハード部分 ○資料館の一部改修(24㎡) ・天井、壁、床板、展示棚の設置 ・展示コーナーを新設</p> <p>■ソフト部分 寄贈いただいた約6000冊の書物については、4月上旬の一般公開に向けて、市教育委員会や神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター等の協力により整理分類し、コード番号を付して、データ化。</p>	<p>改修工事や寄贈書籍などの整理は、地域をはじめ行政や大学など多くの関係者の協力により実施ができました。</p> <p>今後は、寄贈いただいた遺族の方々をはじめ、多くの関係者の思いを含め広く周知し、一人でも多くの方に歴史資料館を訪れていただけるよう広報活動を積極的に実施していきたいと考えています。</p>
						<p>一昨年から施設整備と並行して運営体制を構築し、施設の運営と管理を実現されていることは、評価されるものと考えている。施設もロコミなどで徐々に認知されるようになり、利用者も増加傾向にある。地域雇用の創出にも貢献している。今後の方向性として、安定的な運営、認知度の向上させると共に、地域活動での施設活用や様々なイベント、企画等により地域を盛り上げていただきたい。</p> <p>宇仁郷まちづくり協議会は、市内でいち早く協議会を組織され、これまで地域内の福祉事業をはじめ、様々な地域活性化に取組んでこられています。</p> <p>今回、改修できた歴史資料館が地域住民はもとより、市外からも多くの人が訪れ、地域の歴史を知り学ぶ施設となるよう積極的な広報に努めていただけるよう期待しています。</p>

(様式1)H30年度地域再生大作戦取組地域の評価

(市町名:加西市2)

No	事業名	市町名	地域名	取組概要	取組の成果	取組目標の達成度・評価(地域の自己評価)	
						# (市町の評価)	
	「がんばる地域」 交流・自立応援事業	加西市	九会地区 九会地区ふるさと創造 会議	<p>地域再生大作戦を活用して、地域資源の素晴らしさを再発見するために『九会の名所旧跡探訪』を作ってその素晴らしさを実感してもらったり、アドバイザーと協力して九会地区の組織づくりと今後のまちづくりを指し示す『九会のまちづくり計画』を作り、九会地区のまちづくりの基礎を築いてきました。2019年度は其中で実施したアンケートの中で地域の人々の要望の高かった『地域交通網と買い物行動』『農業の活性化』という要望は高いけれど取り組むには一番ハードルの高い課題にチャレンジしました。地域再生大作戦の有ればこそできる最後の課題としてのチャレンジです。そして、繋げていくためのベースになる事務所の設置です。</p>	<p>地域交通網のアンケートは約1800軒の全家庭から2298部が回収されました。アドバイザーの平福さんと業者、そして地域の人々の検討会等の様々の試行錯誤によって、今後の7000人の九会地区のこれからの地域交通網の姿が浮かび上がりつつあります。どんなものをいつ、どのようにして募集して、そして費用はどうすべきかが描かれつつあります。2019年に行き政や地元の交通業者等とも打合せしながらこれからの九会地区の交通網を検討していく道筋が出来ました。農業の活性化については高齢化によって手放そうとしている農地を今後どうすべきかを、これまで5回と3月に実施する九会アグリカフェでの農業の達人のお話と意見交換会を通して、どんなことをすれば道が開かれるのか、今後何をしていけばよいかが見えて来つつあります。やっと今年1月より開設された事務所を活動の基地として、地域の組織・団体と協働しながらこれからの九会地区ふるさと創造会議を一つづつ踏み出していきたいと思っています。そして、創造会議立上げから継続している地域資源の良さへのアピールは次のステップへと動き始めている。</p>	<p>H30年度の課題はもともと結論を出すのでは無く、これまでの基礎をもとに、九会地区の方向性、今後へ繋ぐための道筋が見えるようになるという事でした。地域再生大作戦のバックが無いと出来ないチャレンジばかりでした。地域交通網については回収率も高く、その分析内容についても次へのアクションの道筋が見えている。農業についてはまだまだ課題は多いが、今のままではいけないという意識はしっかりと根付きつつある。長年の課題であった事務所は1月より稼働し始めており、活動の拠点として、また地域の組織・団体のコミュニケーションの場として、先に繋がるベースの基地として稼働する目的が付き始めた。基礎の上に立ったふるさと創造会議が今離陸しつつあると感じている。</p> <p>九会地区ふるさと創造会議は、H26年4月に設立され、設立翌年度(H27年度)から本年度まで4年間継続して「地域再生大作戦」補助事業を活用し、積極的に地域づくり活動を実施されてきました。本事業の活用により、設立当初から多くの地域住民が関わり地域の活動指針であるまちづくり計画を市内で最初に策定できたことや、その他、今日まで様々な地域づくり事業を実施されています。特に今年度(H30年度)は、これまでの活動を更に前に進めるため、地域課題の一つである地域交通網のアンケートを地区内全戸を対象に実施されたことは今後の九会地区の進むべき方向性を示す貴重な機会になったほか、活動拠点となる事務所を開設できたことで今後の更なる地域づくりが進んでいくものと考えます。</p>	
	「がんばる地域」 交流・自立応援事業	加西市	富田地区 富田まちづくり協議会	<p>富田まちづくり協議会の活動拠点施設である「富田ふれあい館」の賑わい創出や更なるコミュニティ活動の充実を図るため、下記の事業に取り組みしました。</p> <p>①拠点施設の充実アップ 拠点施設の認知度をアップするため、道路沿いの壁面に看板等を設置したほか、事務局機能の更なる充実を図るため、協議会の事務作業や各種企画・運営等をスタッフに委託し、今後に向けた事務局員雇用の可能性をさぐりました。</p> <p>②コミュニティ創出アップ事業 ・施設スペースを活用した講習会の実施 ・先進地視察等</p> <p>③交流促進事業 三世交代流イベント等の実施</p>	<p>①拠点施設の充実アップ H28年度に整備した活動拠点施設「富田ふれあい館」を一人でも多くの方に知っていただくために、道路に面した壁面に大きな看板を設置したほか、両面のスタンドサイン看板を設置し、PRに努めました。 また、事務局機能を更に充実させるため、協議会内における各事業の企画や運営、事務作業等をスタッフに委託し、今後の事務局員の雇用に向けての可能性を確認することができました。</p> <p>②コミュニティ創出アップ事業 講習会の実施はもとより、施設内で地域住民同士の更なるコミュニティの向上のため、継続して「ふれあい喫茶」を実施しました。(毎月第2・4金曜日) また、市内をはじめ県内のイベント等にも積極的に出店し、協議会の活動や野菜・特産品等も販売を行いました。</p> <p>③交流促進事業 当初予定していた小学校区全体の夏祭りを昨年に引き続き企画したが、あいにくの台風のため中止となった。しかしながら、三世交代流イベントやもちつき大会、富田名物の味噌づくりは予定通り実施することができました。また、2ヶ月に1回程度、協議会の広報誌を製作し、地区内で積極的に協議会の動き等についてPRを行いました。</p>	<p>拠点施設の壁面やスタンドサイン看板の設置により、道路からも拠点施設の存在を知ってもらえる良い機会づくりになりました。 また、これまで同様に、今年度も交流拠点施設において「ふれあい喫茶」を実施し、地域住民間での交流を図ることができました。 夏場の天候不良により、富田名物の味噌づくりのベースとなる青大豆があまり取れなかったほか、地域の夏祭りが中止になったことは残念ではありましたが、来年度に向けて、交流拠点を活かした企画等を引き続き実施したいと考えています。</p> <p>富田まちづくり協議会では、本事業の活用により、拠点施設の整備や「ふれあい喫茶」の実施等、これまで以上にコミュニティの充実が図られたものと考えます。 来年度以降は、交流拠点施設を活かした更なる事業の実施やコミュニティ活動を図られることを期待しています。</p>	

(様式1)H30年度地域再生大作戦取組地域の評価

(市町名:多可町 1)

No	事業名	市町名	地域名	取組概要	取組の成果	取組目標の達成度・評価(地域の自己評価)
						" (市町の評価)
	地域おこし協力隊 起業化モデル事業	多可町	観音寺 観音寺むら づくり委員会	<p>観音寺の特産品である減農薬有機栽培により栽培している米や転作作物の菜の花・蕎麦、米は集落の住民による消費を第一とし余剰米を販売したり米粉に加工して販売している。神戸大学生を中心としたサークル「木の家」との交流の中で農作業への関心を持ってもらうことや農作業への参加、特産品のPR、販売に協力を得ながら販売販路の拡大や安定した収益獲得を得るための方法を考えていく。</p> <p>その過程において産地としての観音寺をまず知ってもらうことを今年度の目標の一つとした。</p>	<p>特産品のPR、販売活動においては「木の家」の協力によるところはかなり大きいものがある。「木の家」の活動を通じて観音寺の特産品がわずかでも広がっていることを実感する。今年も体験農業として稲刈りを計画したが生育の状況や悪天候に振り回されて結局中止とせざるを得なかった。2回の店頭販売において来られたお客さんの中にはリピーターの方がおられたことが励みになった。需要の拡大を考えていくことは同時に無理なく供給できることを考えていかねばならない。が、それは営農組合の活動状況において身の丈に合ったものでなければならぬ。無理は禁物。無理をすれば全てに影響が及び継続を困難にすることは明らかである。今後の営農組合のあり方、活動については常にその状況を把握して対応していくことが課題かと思う。</p>	<p>特産品のPRについては、新しいアンテナショップ開拓の必要性も感じるが定期的に開催されている場所でのPRがリピーターを生み受注拡大につながる気がした。今後の生産拡大については、営農組合の現段階での活動能力も考えながら協議していく必要がある。</p> <p>特産品をPRし、販売していくことに関しては、大学生と上手く連携し成果が上がっている。</p> <p>農産物の生産は天候の影響を受けやすく、安定供給は難しいと思われるが、大学生とも協力し、天候に左右されにくい商品の考案など、新たな取り組みも期待したい。</p>
	「がんばる地域」交流・自立応援事業 (ソフト事業)	多可町	門前 門友会	<p>①3世代交流の機会の創出 地域の子ども・若い世代との触れ合いが少なくなる中、3世代交流の機会をひとつでも多く創出すべく村内イベントを実施する。また、地域の子どもにふるさと意識を持ってもらうべく村内の自然を使って遊ぶ、楽しむことにイベントの重点を置く。</p> <p>②地域活動のPR 高齢化により村内の人口が減少する中、地域活動を自主的に行っていることや、村内の魅力(自然・歴史等)を地域内外にPRすることで、交流人口の増加を図る。</p>	<p>①サマーイベント 親族が帰省するタイミングに合わせ、村内の水路を使ったあまごのつかみ取りなど、地域の自然の中で遊ぶイベントを開催し、子どもたちのふるさと意識の向上を図った。</p> <p>②紅葉鑑賞会 地域の紅葉の名所(瑞光寺)を借り、3世代が集う交流の場を持ちつつ地域の歴史や自然などの財産を見つめ直す機会を創出した。</p> <p>③厄神大祭 厄神大祭は地域外から人が集うイベントであるので、夏前からアドバイザーを交えて協議して作成した「門前まちあるきMAP」の配布と甘酒の振る舞いを行い、門前で取り組んでいる活動と門前地域をPRした。</p>	<p>全てのイベントにおいて、有志と共に成功させることができた。特にパンフレットでは、アドバイザーによるミニワークショップを通じて住民の意見(掲載の仕方や掲載する場所など)を組み込むことができた。</p> <p>今年度新たな組織(門友会)を立ち上げ、事業の目的にもある、「細く長く、息の続く地域づくり活動」が着実に進み始めている。今後も集落が一体となって取組を継続していく事を期待する。</p>

No	事業名	市町名	地域名	取組概要	取組の成果	取組目標の達成度・評価(地域の自己評価)
						" (市町の評価)
	田舎に帰ろうプロジェクト事業	多可町	岩座神 岩座神地域協議会	<p>(1)岩座神の古民家において、近隣住民や都市住民に向けた古民家再生イベントを開催する</p> <p>(2)近隣市街におけるイベントにも参加することで岩座神の魅力を広く発信する</p> <p>(3)岩座神で多数のイベントを企画し、新たな移住・定住を希望される方々への情報発信活動を行う。 新たな多可町の人口増加施策としての定住・移住の取組みのモデル活動と位置付ける</p> <p>(4)地域再生大作戦で開催するワークショップにより、より多くの人と関わりを持つことや、立ち上げるFacebookページへ誘導することで農村の魅力を広く知ってもらう</p>	<p>(1)(2)(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>岩座神集落の古民家を活用した参加型ワークショップを全3回(6月、8月、3月)開催し、総勢130名以上の参加申込があった。イベント企画立案にあたっては、(株)太田工務店を始めとした、各分野におけるプロの方々の技術協力・指導を頂き、安全・安心なワークショップ運営が実現できた。また、ワークショップの周知にあたっては、多可町役場の後援及び多可町教育委員会の協力の下、町内小学校へのチラシ配布により、効果的・効率的な告知ができたことが数多の参加者を募れた要因と言える。</li> </ul> <p>・近隣市街におけるイベントを1回出店することができ、総勢200名以上の方に岩座神のおむすびや多可町産の食事を体験してもらい、岩座神の魅力を広く発信することができた。また当イベント主催者であるNPO法人は、岩座神と同様に棚田保全を目的とした組織であり、今後の知見を得られたことも一つの成果である。</p> <p>(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>上記取り組みと同時にFacebookページの内容充実化を図り、イベント前後における投稿を継続した結果、総閲覧数:8,400名以上・いいね!数:350名以上を得ることができた。引き続き岩座神の魅力を広く知ってもらうために継続に取り組みを実施していく。</li> </ul> <p>・今後の取り組みとしては、今回活用した古民家を今年夏～秋にかけて、カフェ・宿泊・イベントスペース等としての運営を目指した本格的な改修を行う。カフェ・宿泊等については、本事業で関係構築したコアメンバーを中心に運営を依頼する定である。また近隣市街との交流を目的としたワークショップを、改修後の古民家中心に企画していくことで、岩座神での暮らし方をアピールすることで、定住・移住への促進フェーズへと移行していくことを計画している。</p>	<p>&lt;定量面&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ワークショップ参加者:130名以上(目標:100名)</li> <li>※3月WSで+30名追加見込み</li> <li>イベント来店者:200名以上(目標:200名)</li> <li>Facebookページ閲覧者:8,400名(目標:2,500名)</li> </ul> <p>→目標に対して全体的に十分に達成。</p> <p>&lt;定性面&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>多様な関係者を巻き込みイベントの充実化を図れた。</li> <li>様々な世代(0歳～80歳)の参加者に岩座神に足を運んでもらい、岩座神の魅力を広く発信できた。</li> </ul> <p>古民家の改修作業をワークショップ形式のイベントとして行い、幅広い世代の参加者を多く集めることができたことは、来年度の事業を行う上で、良い材料となる。 今後、移住希望者が出てくるような情報の発信を期待したい。</p>

(様式1) H30年度地域再生大作戦取組地域の評価

(市町名:多可町 3)

No	事業名	市町名	地域名	取組概要	取組の成果	取組目標の達成度・評価(地域の自己評価)
						" (市町の評価)
3	「がんばる地域」交流・自立応援事業 (ソフト事業)	多可町	八千代区中村 天船地域づくり委員会	<p>集落内には、マイスター工房八千代があるが、少子高齢化、農業後継者不足による耕作放棄地の発生等が地域環境の悪化・過疎化を加速させる要因となっている。対策として、マイスター工房八千代の協力を得て、施設内に直売所を作り、地域の農産物を販売・地域のブランドづくりを行い収益を得る仕組みを構築し、活気ある地域づくりを目指す。</p> <p>○農産物直売所(地域の道の駅"天船ステーション")の整備 ○地域特産の加工食品の開発 ○地域の野菜を活かした料理教室の開催</p>	<p>営業当初は知名度不足や出荷野菜の確保等で大変苦戦をしたが、営業を続けた結果、マイスター工房八千代のお客さんに認識されるようになり、野菜を目的に来店される方もできた。近くの道の駅に野菜を出荷したいが交通問題等による負担が大きく断念されていた高齢農業者は、直売所の開設により積極的に野菜作りに取り組まれるようになった。出荷農家数も増え、目新しい種類の野菜づくりや加工品づくりに意欲的に取り組み、付加価値の高い野菜や商品が出荷されるようになった。6月からの土日営業で、100万を超える売上げを達成し、収益を得る仕組みづくりの基礎ができた。天船ステーションは、マイスター工房八千代との相乗効果により、新しいにぎわいの景色となっている。</p>	<p>現在、お借りしているマイスター工房八千代の施設では、販売面積が少なく天候の影響を受けやすい。この問題を解決するために、マイスター工房八千代隣接の倉庫を改造して、新しい直売所の整備を計画している。売場面積を確保し、商品説明のポップ等を充実させることでさらなる収益率を上げられるように努力する。農業者が計画経営できるようになり、地域農業の再生につながるよう直売所の発展を目指す。</p>
						<p>マイスター工房八千代の集客力を活かして、高い売上げを計上できており、取組初年度から着実に成果を挙げられている。新たな直売所の整備計画もあり、今後のさらなる発展を期待するとともに、新規就農者を育てていけるかが課題。</p>



(様式1)H30年度地域再生大作戦事業の取組み状況等

## 大学等との連携による地域創生拠点形成支援事業

No	事業名	市町名	地域名	実施団体	取組概要	取組の成果	取組目標の達成度・評価(地域の自己評価)
							(市の評価)
	大学等との連携による地域創生拠点形成支援事業	三木市	吉川地区	関西国際大学 松原茂仁研究室	<ul style="list-style-type: none"> <li>学生による「山田錦まつり」報告会、シンポジウム開催、学生インターンシップ、夏祭り、よかわ薬市(商工会)、吉川消防団/消防署訓練参加など、年間10回以上の学生参加イベントを開催</li> <li>インターンシップや業界研究実習といった授業の一部で吉川町と接点を持つ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度インターンシップや業界研究実習の授業で吉川町を訪問した学生はのべ約200人になる。</li> <li>吉川町でのイベントに参加し、よかたん温泉などの施設に友達や家族などで自ら来る学生も出てきた。</li> <li>都会の学生たちが直売所や農業について少しは理解することができ、課題について考えることができた。</li> <li>神戸新聞の記事に学生たちが掲載され、学生の自信やモチベーションアップと共に、県の事業としての認知も広がった。</li> </ul>	<p>学生参加イベントを、当初3か月に1回程度で年4回を目標としていたが、今年度は地域団体の協力もあり年間11回開催できた。今年度は学生たちが吉川町に複数回訪問することを考え予想以上の結果となったが、次年度は次のステージで活動に取り組みたい。</p> <p>昨年の取組からさらに発展し、大学の強みを生かした都市部と農村部との交流人口の増加に寄与する取組がなされている。学生ならではのSNS等を利用した情報発信や、新たな商品開発による6次産業化支援、さらには学生の地域拠点での活動によるコミュニティビジネスの誕生など地域活性化に期待している。</p>
	大学等との連携による地域創生拠点形成支援事業	多可町	八千代地区	八千代地域活性化センター 甲南女子大学 佐伯研究室 村おこしプロジェクト country road	<ul style="list-style-type: none"> <li>①学生が主体的に地域活性化に関わる体制を作る。</li> <li>②休耕田でのラベンダーやハーブの栽培、ラベンダーやハーブを利用した特産品の試作、朝市の販売支援などを通じ、6次産業化の基盤づくりを行う。</li> <li>③学生・教職員等と地域住民が行事やイベントで交流して学び合う場を作る。</li> <li>④地域活性化に寄与できそうな学科の教職員を地域に招き、共同研究・事業活動の可能性を模索する。</li> <li>⑤本取組みの情報をSNS等を活用して発信する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①今年度より、7学科29名の学生による地域活性化を目的とした部活動を立ち上げた。</li> <li>②休耕田でのラベンダーやハーブの栽培・収穫を行い、乾燥ラベンダーを用いたサシェ、入浴剤をそれぞれ30個程試作し、イベントで販売した。マイスター工房前の仮設店舗の朝市で3回販売支援を行った。</li> <li>③1月末までに10回(12日間)八千代で活動し、延べで学生98名、教員23名、職員2名、卒業生等14名が参加した。</li> <li>④参加教員の多くは本学医療栄養学科、多文化コミュニケーション学科に所属しており、専門分野と関連した連携を模索中。</li> <li>⑤SNSでの発信は行っているが、神戸新聞、朝日新聞、サンテレビによる取材を受け、本取組みの知名度が一気に高まった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①上級生が引退後、部員は4学科16名に減少した。新入生の獲得が課題。</li> <li>②ラベンダーやハーブはまだ収穫量が少なく、耕作面積の拡大が課題。加工品も学生の手作りでは限界があり、地域住民や事業者との連携が課題。販売支援を行った仮設店舗を常設店舗に移転する計画に合わせ、空間デザインや内装の提案など支援範囲を拡大。</li> <li>③④学生の主体的活動としては十分な訪問頻度と人数と認識。教職員と地域との関係性を足掛かりに、大学と多可町との包括提携を早期に実現。</li> <li>⑤部活動の初年度としては異例のメディア露出と認識。今後分かりやすい成果が得られた段階ごとに、メディアへの情報提供を継続予定。</li> </ul> <p>ハーブの栽培から加工品の作成、イベント等での販売と着実に進んでいる。高齢化の進む地域において、いかに規模を拡大していけるかが課題。また、毎年学生が入れ替わる大学においては、部員数確保の問題は避けられないものであるが、今後もメディア等を有効活用し、継続的な活動を期待したい。</p>

